

― 業界の状況をお聞かせください。

輸入比率の高い蜂蜜業界ですが、国産志向のトレンドの中でここ数年、国産品の需要が高まっています。特に昨年はその傾向が顕著になり、当社も国産品の扱い量が増え、比率が3割まで上がりました。それは昨今、高齢化社会の影響もあつて山林の手入れができなくなつてきており、その結果の副産物として植物の生態系が復活し、山の草花の蜂蜜が豊作となつたことなどが原因です。

― 2016年の事業計画は。

本巣屋井工場で蜂蜜の新たな加工設



株式会社 秋田屋本店



代表取締役社長 中村 正氏

備を稼働し、企業向け新製品を投入します。ミネラルやビタミンなどを除去することなく処理したり、残留農薬や抗生物質を排除する新技術と設備の実用化となります。これによりスイーツ

研究開発を通じ、よ

向けなど、よりクリーンな製品へのニーズに添えていきます。

もう一つの柱である相手先ブランド製造(OEM)部門では、安心・安全を重視した乳幼児、幼児向けのゼリー飲料

より良い商品を提供

リー新製品を売り出します。飲みやすく、のどごしがいいのが特徴です。自社製品として通信販売で春にも発売し、事業の柱として育てていきたいと考えています。

の製造に力を入れます。昨年発売され、今年の拡販に合わせ増産体制をとっていきます。

また、今年岐阜大学との産学研究によるローヤルゼリーのステイックゼ

― 研究開発に注力されていますね。

岐阜大学との産学共同研究に力を入れていきます。ここ数年、岐阜大学、同大学院の卒業生が継続して入社して戦力となり、研究開発、製品開発、品質保証の各部門で力を発揮してもらっています。長年の共同研究を通じ、好循環が生まれていると思っています。

私自身も昨年10月に藤田保健衛生大学大学院医学研究科において、医学博士の学位を取得することができました。社員の励みになるのではないかと思います。



概要

〒500-8471 岐阜市加納富士町1丁目1番地
 TEL.058-272-1221

創業 1804年 養蜂部創設/1887年
 設立 1961年11月28日
 資本金 5,000万円
 従業員数 300人
 事業内容 ミツバチ産品・養蜂資材の製造・販売、医薬品・食品製造業

事業所 城南事業所(養蜂部)
 営業所 東京営業所
 工場 洞戸工場、薬師工場、本巣屋井工場、本社工場
 養蜂場 伊自良養蜂場
 関連会社 日本養蜂株式会社、ハネックス株式会社

オンラインショップ <http://akipure.com>

<http://www.akitayahonten.co.jp>